上越教育大学研究紀要　第35巻　平成28年３月
Bull. Joetsu Univ. Educ., Vol. 35, Mar. 2016

中学校３年生のライフキャリアイメージと自律的学習動機の関係

山　田　智　之*

（平成27年８月26日受付；平成27年10月29日受理）

要　　旨

本研究は，中学校３年生のライフキャリアイメージと自律的学習動機の関係について検討したものである。ライフキャリアイメージを測定する尺度には，家島（2011）が開発した人生双六を用いた。人生双六の中に出現したテキストデータをSuper（1980）の人生役割に照らし合わせて分類した。そして，分類された人生役割と自律的学習動機との関係を検討した。その結果，過去においては，「学生に関連する語句」が，自律的学習動機の同一化的調整に影響を与えていた。また，未来においては，「学生に関連する語句」が同一化的調整に影響を与えていた。さらに，「労働者に関連する語句」と「家庭人に関連する語句」が内的調整に影響をあたえていた。以上のことから，自律的学習動機を高めるためには，労働者や家庭人といったライフキャリアイメージを中心に，キャリアイメージが広げられるキャリア教育の取り組みが重要であることが示唆された。

KEY WORDS
Life career image　ライフキャリアイメージ，　JINSEI SUGOROKU　人生双六，
Autonomous motivation for learning　自律的学習動機

１　問題と目的

義務教育修了段階である15歳を対象として実施されたPISA調査の結果について，鈴川・豊田・川端（2008）は，PISA2003の分析結果から，日本の生徒の数学の学力は高いが，日常生活において数学的知識を活用する力が国際的に低いことを指摘している。また，長崎（2005）は日本の児童・生徒の算数・数学の学力水準は国際的に高いが，数学が生活や社会と関連していると考える意識は国際的に低いことを指摘している。

この状況は，学力が回復傾向にあるとされたPISA2012においても同様であり，数学的リテラシーが７位／65カ国（536点），読解力習熟度が４位／65カ国（538点），科学的リテラシーが４位／65カ国（547点）と高い傾向にあるが，「数学における興味・関心や楽しみ」指標が60位／65カ国，「数学における道具的動機付け」指標が64位／65カ国，「数学における自己効力感」指標が63位／65カ国となっている（国立教育政策研究所，2013）。

このような状況は，数学や科学分野だけでなく他の分野においても同様であることが予測される。すなわち，日本では，生徒たちが日頃の学習で学んだ知識を実感しながら理解することができず，学ぶことの意義について身をもって体得していない現状があり，社会生活や将来の職業生活における必要性や有用性などを認識したりすることが十分にできない状況にあると考えられる（文部科学省，2004）。そして，生徒たちが学習に対して動機付けられていない状況にあることが予測される。

このような日本の生徒の現状を解決するために，文部科学省（2004）は小学校・中学校・高等学校におけるそれぞれの発達段階に応じたキャリア教育の重要性を強調している。

キャリア教育とは，ライフキャリア開発への支援であり（Gysbers, Heppner & Johnston, 2003），人生における役割，環境，出来事の相互作用と統合を通して行う生涯にわたる自己開発への支援と考えられる。Super（1980）は，ライフキャリアについて人生役割（life role）と密接な関係があるものと考えた。そして，人生役割として子ども・学生・余暇人・市民・労働者・伴侶・家庭人・親・年金生活者の９つをあげ，これらの役割構造をライフキャリアレインボウとして示した。そのうえで，個人のキャリアパターンによって，人生役割が個人のキャリア選択・意思決定に重要な役割を果たすとしている。

三川（1990）は，高校生から社会人を対象にライフキャリアの視点から役割特徴と役割受容の関係を検討し，男性における役割受容は，加齢に伴って主要な役割が分化し，とりわけ「学習者」「労働者」という特定化された役割に

*学校教育学系

積極的に参加することによって達成されることを明らかにしている。一方，女性の役割受容は「学習者」「労働者」に加えて「家庭や家族」など多様な役割をうまく統合し，いずれの役割に対しても幅広く参加することによって達成されることを明らかにしている。

また，田澤（2005）は，女子大学生を対象に，仕事や家族，余暇や地域社会といった生活領域と将来イメージの関連を検討し，余暇を仕事や家族よりも重視するか否かという点が，女子大学生の描く将来イメージを左右することを明らかにしている。

このように，日本においてはSuper（1980）の人生役割（life role）をもとにしたライフキャリアに関する研究が，近年様々に行われている。しかしながら，義務教育修了段階である15歳の生徒を対象としたライフキャリアに関する研究は極めて希少である。

ところで，義務教育修了段階の生徒はライフキャリアをどのようにイメージしているのであろうか。イメージとは知覚を能動的に再構築したものであり（Denis,1989 ドゥニ他訳 1989），心的イメージは創造的な思考に影響をあたえるものである（Shepard, 1978）。このことから考えると，自らのライフキャリアに関するイメージは，生徒の将来に対する創造的な思考に何らかの影響をあたえることが考えられる。

一方，キャリア教育の効果への期待の一つに，生徒たちが学習に対して動機付けられることがある。新井（1995）は，人生の目標を自分で設定し，その達成に向けて自発的学習しようとする意識である「自己実現のための学習意欲」を示し，小学生から中学校３年生にかけて，他の外発的・内発的学習意欲と比較して，相対的に強くなっていくものであることを示している。また，松本（2012）は，自己実現のための学習意欲（新井，1995）について，自分の将来に関係あるから学ぶという動機付けであり，進路意識と動機付けとの相乗効果があることを示し，キャリア教育によって，進路成熟が促進され，学習に対して動機づけられることを示唆している。自分の将来に関係あるか否かを判断するためには，自分の将来に対するイメージが必要となると考えられる。

ところで，学習に対する動機付けを表すものとして，西村・河村・櫻井（2011）は，自律的学習動機を示している。自律的学習動機とは，自己決定理論（Ryan＆Deci, 2000）に基づいて，西村・河村・櫻井（2011）が示した学習に対する価値や調整の内在化を表す動機付け概念である。自己決定理論（Ryan＆Deci, 2000）によれば，人間には自律性の欲求，有能性の欲求，関係性の欲求という３つの心理的欲求があり，これらの欲求が満たされたときに内発的に動機づけられるとしている。これらの心理的な欲求を学習場面に照らし合わせてみると，自律性の欲求とは，自らの興味や関心に基づいて学習に関する行動を自らが選択し決定したいという欲求である。有能性の欲求とは，教員や保護者，仲間などの他者からの肯定的な評価によって，できるという実感を得たり有能だと感じたいという欲求。関係性の欲求とは，教員や保護者，仲間などの他者から受容されたいという欲求と考えることができる。このうち，自律性の欲求における自らの興味や関心の中には，自分の将来に対する興味や関心も含まれると考えられ，自分の将来に対するイメージが，学習に対する内発的動機付けに関連していることが考えられる。

以上のことから，義務教育修了段階の生徒のライフキャリアに対するイメージと学習に対する動機付けとの関係を明らかにすることは，キャリア教育の取り組みを検討する上で極めて重要なことと考えられる。そこで，本研究では心理学的な尺度を用いて日本の義務教育修了段階にあたる中学校３年生のライフキャリアイメージと学習動機との関係を検討する。

2 方法

首都近郊の住宅地に立地する公立中学校に在籍する中学校３年生254名（男子中学生111名，女子中学生143名）を対象に，2012年の２月～３月に質問紙調査法による調査を，集合調査と宿題調査によって実施した。そして221名（男子中学生94名，女子中学生127名）から回答を得た（有効回答率87.01％）。

調査にあたっては，学習に対する動機を測定する尺度として，自己決定理論（Ryan＆Deci, 2000）に基づいて，西村・河村・櫻井（2011）が作成した自律的学習動機尺度を用いた。当該尺度は，内的調整，同一化的調整，取り入れ的調整，外的調整といった４つの下位尺度から構成される20項目の尺度である[1)]。内的調整とは，内発的動機づけに相当し，興味や関心によって行動が生起する動機づけである。同一化的調整とは，活動を行う価値を自分のものとして受け入れている動機づけである。取り入れ的調整とは，自我拡張や他者比較による自己価値の維持，罪や恥の感覚の回避などに基づく動機づけである。外的調整とは，典型的な外発的動機づけに相当し，報酬の獲得や罰の回避，または社会的な規則によって行動が生起する動機づけである。これら四つの調整スタイルは，自律性の高い順に，内的調整，同一化的調整，取り入れ的調整，外的調整と一次元上に並ぶことが想定されている（西村・櫻井，2013）。

具体的な調査方法としては，自律的学習動機尺度については質問紙によって，項目ごとに「全くあてはまらない（１点）」～「非常によくあてはまる（５点）」までの５件法による調査を集合調査によって実施した。

一方，ライフキャリアイメージを測定する尺度として，図１に示されたようなビジュアル・キャリア・ナラティブとして，家島（2011）が開発した人生双六を用いた。

人生双六については，「①『START（＝誕生）』『GOAL（＝死）』『現在』を必ず記入し，人生双六を作成してください。②過去については，人生を振り返りながら，自分にとって重要なエピソードを書きこんでください。③将来については，希望や予想を含めて想像しながらライフイベントを書きこんでください。④前述の①～③の条件以外は自由です。色鉛筆などによって色やイラストをつけることも可能です。」と指示し，集合調査によってＡ３判のケント紙に自由に表現をさせた。これら２つの調査を100分にわたって行い，人生双六が完成しなかった場合においては宿題調査とし，１週間後に提出させた。

３　分析と結果

３．１　自律的学習動機尺度

自律的学習動機尺度（西村・河村・櫻井，2011）の下位尺度である内的調整（α=.914），同一化的調整（α=.938），取り入れ的調整（α=.946），外的調整（α=.933）の全てのα係数が.900を超えていることから信頼性は高い尺度と判断できる。また，各下位尺度を潜在変数とした仮説的モデルを作成して確認的因子分析を行った結果，概ね十分な適合度（*NFI*=0.963, *CFI*=0.989, *RMSEA*=0.042）が示され，因子的に妥当な尺度と判断できる。また，下位尺度間の相関係数を算出した結果，内的調整－同一化的調整（r=.446，p<.001），内的調整－取り入れ的調整（r=.382，p<.001），内的調整－外的調整（r=.111，*n.s.*），同一化的調整－取り入れ的調整（r=.351，p<.001），同一化的調整－外的調整（r=.178，p<.008），取り入れ的調整－外的調整（r=.604，p<.001）となり，概念的に隣接する調整スタイルの間の相関係数が高い値を示し，正の相関が認められた。また，概念上最も離れた調整スタイル間は無相関を示し，シンプレックス構造が確認された（表１）。

以上の結果から，本研究では自律的学習動機尺度の下位尺度（内的調整，同一化的調整，取り入れ的調整，外的調整）ごとに各項目の合計点を求めて尺度得点とした。

３．２　自律的学習動機の記述統計量

本研究で用いた自律的学習動機尺度の最小値，最大値，平均値，標準偏差，歪度，尖度は表２に示す通りであった。このうち，同一化的調整の平均値が高い傾向を示し，歪度は負の方向に歪んだ分布を示していた。また，尖度は正規分布に比べて相対的に尖っている分布を示していた。一方，内的調整，同一化的調整，取り入れ的調整，外的調整の標準偏差は，どの下位尺度においてもばらつきが認められないものの，取り入れ的調整，外的調整において若干高い傾向が認められた。

図１　中学生が作成した人生双六

表１　下位尺度間の相関

	内的	同一化的	取り入れ的	外的
内的調整				
同一化的調整	.446 ***			
取り入れ的調整	.382 ***	.351 ***		
外的調整	.111 *n.s.*	.178 **	.604 ***	

表２　自律的学習動機の記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	歪度	尖度
内的調整	221	5	25	14.82	5.120	−.057	−.386
同一化的調整	221	5	25	19.70	4.747	−1.035	1.128
取り入れ的調整	221	5	25	14.07	5.639	.075	−7.65
外的調整	221	5	25	14.42	5.456	−.042	−.593

３．３　人生双六

中学生の作成した人生双六について，「中学生，中学校入学，中学校入学式，中学校卒業，中学校卒業式，中学生活」などの語句を「中学生」，「旅行，海外旅行，家族旅行，新婚旅行，社員旅行，アウトドア，宇宙旅行，テーマパーク，遊園地，ハネムーン，フルムーン」などの語句を「旅行」，「就職，パン工場に就職，陸上自衛隊に合格，ゲームクリエイターとして就職，消防士になる，大手企業に就職，プロ野球入団テストに合格」などの語句を「就職」としてまとめるなど，類似する語句をまとめて506語に整理した。

そして，集められた語句について，豊田（2011）が示した理論的サンプリングにおける理論的飽和度を求める方法を用い，95%信頼区間の上側限界を利用した捕獲率を計算した。その結果，捕獲率（Cr=.949）は高い値を示し，理論的に飽和しており，十分に信頼できるサンプリングであることが示された 。

次に506語の語句をSuper（1980）がライフキャリアレインボウに示した人生役割（life role）に照らし合わせて，子ども関連の語句・学生関連の語句・余暇人関連の語句・市民関連の語句・労働者関連の語句・家庭人関連の語句・その他の語句に分類し，これを中学生のライフキャリアイメージとした。そして，出現した語句の数を尺度得点とした。

３．４　ライフキャリアイメージの比較（過去と未来）

中学生のライフキャリアイメージについて，人生役割（life role）ごとに過去と未来で比較した。その結果，子ども関連の語句（t=12.001，df=220，p=.001）・学生関連の語句（t=15.616，df=220，p=.001）においては，「誕生～現在（過去）」の方が「現在～死（未来）」より語句の数が有意に多く，市民関連の語句（t=7.969，df=220，p=.001）・労働者関連の語句（t=16.344，df=220，p=.001）・家庭人関連の語句（t=12.655，df=220，p=.001）・その他の語句（t=8.053，df=220，p=.001）においては，「現在～死（未来）」の方が「誕生～現在（過去）」より語句の数が有意に多かった（表３）。

３．５　ライフキャリアイメージの比較（性別）

中学生のライフキャリアイメージについて，人生役割（life role）ごとに性差を検討した。その結果，「現在～死（未来）」における余暇人関連の語句（t=3.206，df=149，p=.01）・家庭人関連の語句（t=2.119，df=143.990，p=.05）では女子生徒の語句の数が有意に多く，労働者関連の語句（t=3.366，df=126.916，p=.01）では男子生徒の語句の数が有意に多かった（表４）。

表３　中学生が作成した人生双六に示された語句の分類（度数が５以上のもの）

	NO	子ども関連の語句	度数	学生関連の語句	度数	余暇人関連の語句	度数	市民関連の語句	度数	労働者関連の語句	度数	家庭人関連の語句	度数	その他の語句	度数
誕生～現在	1	引っ越し	39	小学生	213	友達	80					弟	29	病気	21
	2	発語	31	中学生	212	趣味（運動系）	65					妹	25	怪我・骨折	16
	3	初立ち	29	幼稚園児	145	趣味（文化系）	64					兄	8	いじめ	6
	4	初歩き	27	部活動	96	旅行	25					姉	7	東日本大震災	7
	5	はいはい	23	高校受験	95	塾	19							事故・交通事故	5
	6	授乳・離乳	8	遠足・集団宿泊的行事	66	ペット	13								
	7	初語	7	文化的行事	50	恋愛	12								
	8	迷子	5	健康安全・体育的行事	46	遊び	12								
	9			保育園児	42										
	10			勉強	28										
	11			教員	17										
	12			テスト	17										
	13			クラス替え	15										
	14			職場体験	12										
	15			生徒会・委員会活動	11										
	16			転校	7										
	度数1～4の語句		50		37		9		3				12		30
	抽出語句の度数（延べ数）		**219**		**1109**		**299**		**3**		**0**		**81**		**85**
	抽出語句の総数		**42**		**42**		**15**		**1**		**0**		**11**		**34**
現在～死	1			高校生	210	旅行	78	成人	31	就職	154	結婚	146	病気	33
	2			大学生	143	趣味	48	年金生活	13	アルバイト	40	子供	138	家の購入・家を建てる等	23
	3			部活動	54	恋愛	47	ボランティア	6	定年退職	34	孫	56	病院・入院	17
	4			大学受験	34	友達	27			退職	27	夫の死	16	一人暮らし	16
	5			専門学校生	29	ペット	15			仕事	18	子どもの成人	12	自動車免許	16
	6			勉強	27	ギャンブル	15			社長	14	子どもの小学校	11	病気（癌・脳梗塞・糖尿病）	13
	7			文化的行事	17	飲酒	9			起業	13	子どもの自立	9	海外移住	11
	8			遠足・集団宿泊的	16	同窓会	7			就職活動	12	子どもの幼稚園	7	老化・衰弱・寝たきり・認病生活	12
	9			海外留学生	10	老後	5			部長	11	子どもの独立	7	事故（交通事故など）	9
	10			健康安全・体躯的行事	8					係長	8	家庭	7	夢	8
	11			浪人	7					出世	7	子どもの中学校	7	幸せな人生	7
	12									スポーツ選手	7	ひ孫	7	長生き	6
	13									課長	6	子どもの高校	7		
	14									資格取得	6	離婚	5		
	15									ボーナス	5				
	16						0			転職	5	出産	5		
	度数1～4の語句		7		49		17		19		120		109		86
	抽出語句の度数（延べ数）		**7**		**604**		**268**		**69**		**487**		**554**		**257**
	抽出語句の総数		**5**		**44**		**21**		**15**		**107**		**94**		**75**
	t	12.001 ***		15.616 ***		1.399 *n.s.*		7.969 ***		16.344 ***		12.655 ***		8.053 ***	
	自由度	220		220		220		220		220		220		220	

3．6　中学生のライフキャリアイメージが自律的学習動機に与える影響

中学生のライフキャリアイメージが自律的学習動機に与える影響について検討するため，Super（1980）の人生役割（life role）に照らし合わせて分類された，子ども関連の語句・学生関連の語句・余暇人関連の語句・市民関連の語句・労働者関連の語句・家庭人関連の語句・その他の語句に出現した語句の数を独立変数，自律的学習動機の各下位尺度の得点を従属変数とする強制投入法による重回帰分析を行った。

その結果，「誕生～現在（過去）」では，自律的学習動機の同一化的調整において分散分析F値により有意であり（F（6，214）=2.600，p<.05），このうち学生関連の語句（β=.205，p<.01）が，自律的学習動機の同一化的調整に影響を与えていた（表５）。一方，「現在～死（未来）」では，自律的学習動機の内的調整において分散分析F値により有意であり（F（6，214）=2.833，p<.01），このうち労働者関連の語句（β=.161，p<.05）と家庭人関連の語句（β=.153，p<.05）が内的調整に影響を与えていた（表５）。また，同一化的調整において分散分析F値により有意であり（F（6，214）=2.413，p<.05），このうち学生関連の語句（β=.200，p<.01）が同一化的調整に影響を与えていた（表５）。

4　考察

4．1　自律的学習動機

中学生の自律的学習動機について，平均値・標準偏差をみると同一化的調整，内的調整，取り入れ的調整，外的調整の順に得点が高く，同一化的調整においては非常に高い値を示していた。このことから，中学生は学習に対して動機づけられており，自律的な傾向にあると考えられる。しかしながら，このような傾向を示す理由として，本調査が中学校３年生の３学期の高校入学試験時期に実施されたものであることが影響を与えていることも考えられる。今後は，中学校１・２年段階の調査も進め，中学生の自律的学習動機についてさらに研究を深めていく必要がある。

4．2　ライフキャリアイメージの比較（過去と未来）

本研究で中学生の作成した人生双六の語句を人生役割（Super，1980）に照らし合わせて分類した結果をみると，子ども関連の語句・学生関連の語句については，「誕生～現在（過去）」の方が語句の数が多く，市民関連の語句・労働者関連の語句・家庭人関連の語句・その他の語句については，「現在～死（未来）」の方が語句の数が多かった。このことから，中学生は過去と将来をしっかりと分け，自らのライフキャリアをイメージしており，将来社会人としての人生役割をはたしていくことを認識していると考えられる。

しかしながら，市民関連の語句の数が他の人生役割に関する語句と比べて，「誕生～現在（過去）」「現在～死（未来）」ともに極端に少ない値であった。このことについては，三川（1990）の高校生から社会人を対象にしたライフキャリアの視点から役割特徴と役割受容の関係を検討した研究と異なる結果を示していた。三川（1990）の研究では，どの年代においても「社会的活動」の参加尺度は最低得点を示してなく，男性の場合には「社会的活動」の参加尺度得点が，大学生において一時的に高くなり，20代の社会人では最も低くなるものの，40代以降に再び高くなっていた。一方，女性の場合には，高校生から大学生にかけ「社会的活動」の参加尺度得点が有意に増加しており，男女ともに極端に低い値は示していなかった。

このように異なる結果を示した理由としては，本研究の被調査者が中学３年生であり，社会経験がほとんどないことから，社会的活動を行う市民としての役割をイメージできなかったことが考えられる。これは中学校におけるキャリア教育の課題とも考えることができ，今後，日本の中学校ではシチズンシップ教育の視点を取り入れたキャリア教育の在り方を検討していく必要があると考える。

4．3　ライフキャリアイメージの比較（性別）

「現在～死（未来）」において，労働者関連の語句の数は男子生徒の方が多く，余暇人関連の語句・家庭人関連の語句の数は女子生徒の方が多いことから，男女で異なるライフキャリアイメージを描いていることが明らかになった。

女子生徒の方が余暇人関連の語句の数が多かった理由としては，「恋愛」として整理された語句を余暇人関連の語句に含めて分析したことが原因の一つと考えられる。また，田澤（2005）の研究によれば，女子大学生が仕事も家族も重視しようと思えない結果として余暇を重視する傾向があること，余暇を重視する生活の実現不可能性を考慮していることなどがあげられており，この結果から考えると，余暇に対する考え方について，中学生の段階から女性とし

表４　中学生が作成した人生双六に示された語句の性差

		男子生徒 *N*=94		女子生徒 *N*=127		*df*	*t*
		度数	平均値	度数	平均値		
誕生～現在	子ども関連の語句	96	(1.02)	123	(0.97)	121	1.577 *n.s.*
	学生関連の語句	444	(4.72)	665	(5.24)	215	1.759 *n.s.*
	余暇人関連の語句	110	(1.17)	189	(1.49)	165	.176 *n.s.*
	市民関連の語句	0	(0.00)	3	(0.02)	--	-- --
	労働者関連の語句	0	(0.00)	0	(0.00)	--	-- --
	家庭人関連の語句	19	(0.20)	62	(0.49)	63	1.889 *n.s.*
	その他の語句	31	(0.33)	54	(0.43)	55	.625 *n.s.*
	語句小計	700	(7.45)	1096	(8.63)	219	2.691 **
現在～死	子ども関連の語句	2	(0.02)	5	(0.04)	--	-- --
	学生関連の語句	253	(2.69)	351	(2.76)	213	.282 *n.s.*
	余暇人関連の語句	81	(0.86)	187	(1.47)	149	3.206 **
	市民関連の語句	42	(0.45)	27	(0.21)	58	1.279 *n.s.*
	労働者関連の語句	262	(2.79)	225	(1.77)	126.916	3.366 **
	家庭人関連の語句	147	(1.56)	407	(3.20)	143.990	2.119 *
	その他の語句	115	(1.22)	142	(1.12)	141	.917 *n.s.*
	語句小計	932	(9.91)	1382	(10.88)	219	1.447 *n.s.*
	語句総計	1632	(17.36)	2478	(19.51)	219	2.541 *

Notes. $^{*}p<.05$, $^{**}p<.01$, $^{***}p<.001$

表５　中学生のライフキャリアイメージが自律的学習動機に与える影響

	従属変数	内的調整	同一化的調整	取り入れ的調整	外的調整
	R^2	.001	.042	.024	.019
	F	1.032 *n.s.*	**2.600 ***	1.886 *n.s.*	1.721 *n.s.*
	独立変数	*β*	*β*	*β*	*β*
誕生～現在	子ども関連の語句	.025 *n.s.*	.073 *n.s.*	-.047 *n.s.*	.018 *n.s.*
	学生関連の語句	.153 *	**.205 ****	.199 **	.167 *
	余暇人関連の語句	-.079 *n.s.*	.068 *n.s.*	.043 *n.s.*	-.047 *n.s.*
	市民関連の語句	.009 *n.s.*	.077 *n.s.*	.047 *n.s.*	.044 *n.s.*
	労働者関連の語句	-- --	-- --	-- --	-- --
	家庭人関連の語句	.003 *n.s.*	-.074 *n.s.*	-.069 *n.s.*	-.116 *n.s.*
	その他の語句	.034 *n.s.*	.000 *n.s.*	-.089 *n.s.*	-.073 *n.s.*
	R^2	.055	.043	.029	.001
	F	**2.833 ****	**2.413 ***	1.929 *n.s.*	1.047 *n.s.*
	独立変数	*β*	*β*	*β*	*β*
現在～死	子ども関連の語句	-.086 *n.s.*	.040 *n.s.*	.091 *n.s.*	.119 *n.s.*
	学生関連の語句	.045 *n.s.*	**.200 ****	.159 *	.005 *n.s.*
	余暇人関連の語句	-.063 *n.s.*	.038 *n.s.*	-.083 *n.s.*	-.045 *n.s.*
	市民関連の語句	.085 *n.s.*	-.038 *n.s.*	.021 *n.s.*	.009 *n.s.*
	労働者関連の語句	**.161 ***	.109 *n.s.*	.099 *n.s.*	.121 *n.s.*
	家庭人関連の語句	**.153 ***	.065 *n.s.*	-.045 *n.s.*	-.003 *n.s.*
	その他の語句	.063 *n.s.*	-.012 *n.s.*	.066 *n.s.*	.053 *n.s.*

Notes. $^{*}p<.05$, $^{**}p<.01$, $^{***}p<.001$

ての特性が表れてきていることも考えられる。一方，労働者関連の語句の数は男子生徒の方が多く，家庭人関連の語句の数は女子生徒の方が多かったことについては，男性における役割受容が，加齢に伴って主要な役割が分化し「学習者」「労働者」という特定化された役割に積極的に参加することによって達成されるのに対して，女性の役割受容は，「学習者」「労働者」に加えて「家庭や家族」など多様な役割に幅広く参加することによって達成される（三川，1990）という男女の特徴が，中学生段階から表れ始めていると考えられる。この理由としては，夫が外で働き，妻が家事・育児に専念するという伝統的な性別役割分業意識やジェンダーステレオタイプが影響を与えていることが考えられる。この背景としては，保護者の保護下で生活をしているという中学生の生活環境が大きく影響していると考え

られる。

しかしながら，坂柳・清水（1990）が，親・教師・友人などからの働きかけが，中学生の性役割自己概念の形成・獲得においても極めて大きな比重を占めるとしていると述べていることから考えると，今後，日本の中学校ではジェンダー・フリーの視点を取り入れたキャリア教育の在り方を検討していく必要があると考えられる。

４．４　中学生のライフキャリアイメージが自律的学習動機に与える影響

「誕生～現在（過去）」と「現在～死（未来）」のどちらにおいても「幼稚園児，小学生，中学生，高校生，大学生，高校受験，部活動，遠足・集団宿泊的行事，文化的行事」といった学生関連の語句が，学習活動を行う価値を自分のものとして受け入れている動機づけである自律的学習動機の同一化的調整に影響をあたえていた。このような結果になった理由としては，本研究の被調査者が中学３年生であることから，「誕生～現在（過去）」においても「現在～死（未来）」においても，学生関連の語句の抽出語句の度数（延べ数）が最も多く，小学生時代の自分，やがては高校生・大学生となる自分といったように学生というイメージが明確になっていることが考えられる。また，学生というものを学習と結びつけてとらえていることが考えられる。しかしながら，本研究の被調査者が中学３年生であり，調査時期が２月～３月の高校への入学試験実施時期と重なることから，通常よりも強く学習というものを意識している可能性もあり，このことについて，学年や時期をずらして調査するなど，今後さらに研究を深める必要がある。

一方，「現在～死（未来）」においては，「就職，アルバイト，定年退職，退職，仕事，社長，起業，就職活動」といった労働者関連の語句と「結婚，子供，孫，夫の死，子どもの成人，子どもの小学校」といった家庭人関連の語句が，興味や関心によって学習行動が生起する動機づけである自律的学習動機の内的調整に影響を与えていた。このような結果になった理由としては，本研究の被調査者が中学３年生であり，多くの生徒が保護者と共に生活し，家庭人としての生活を日頃から目にしているため，家庭人関連の語句の抽出語句の度数（延べ数）が学生関連の語句に次いで２番目に多く，家庭人についてのイメージが明確になっていることが考えられる。そして，家庭人になることと学習を結びつけてとらえていると考えられる。また，親が労働者であったり，職場体験などの経験をしていることから，労働者関連の語句の抽出語句の度数（延べ数）が，家庭人関連の語句に次いで３番目に多く，将来，自分が労働に従事するという労働者としてのイメージが明確になっており，労働者になることと学習を結びつけてとらえていると考えられる。

以上のことから，自律的学習動機を高めるためには，中学生に学習者であることの自覚を促し，現在やるべきことを理解させるとともに，労働者や家庭人に関連したライフキャリアイメージを基本に，自らの将来が描けるようなキャリア教育の取り組みを工夫することが重要であると考える。

４．５　成果と課題

中学生が自分のライフキャリアをどのようにイメージしているのかを捉えることは，中学校におけるキャリア教育やキャリア支援の在り方を工夫する上で重要なポイントである。このようなイメージを捉える手法として人生双六は有効な測度となると考えられる。

また，本研究においては人生双六に出現する「語句」からライフキャリアイメージを読み解いたが，人生双六に表記される文章や描画からライフキャリアに対する「感情」を読み解くなど，様々な読み解きの方法が考えられる。

今後は，人生双六の読み解きの方法についてさらに検討を進めると共に，高校生，大学生が描くライフキャリアイメージと自律的学習動機との関係についても検討して行く必要があると考える。

注

１）自律的学習動機尺度（西村・河村・櫻井，2011）

内的調整

・問題を解くことがおもしろいから

・むずかしいことに挑戦することが楽しいから

・勉強すること自体がおもしろいから

・新しい解き方や，やり方を見つけることがおもしろいから

・自分が勉強したいと思うから
同一化的調整
・将来の成功につながるから
・自分の夢を実現したいから
・自分の希望する高校や大学に進みたいから
・自分のためになるから
・勉強するということは大切なことだから
取り入れ的調整
・勉強で友だちに負けたくないから
・友だちより良い成績をとりたいから
・まわりの人にかしこいと思われたいから
・友だちにバカにされたくないから
・勉強ができないとみじめな気持ちになるから
外的調整
・やらないとまわりの人がうるさいから
・まわりの人から，やりなさいといわれるから
・成績が下がると，怒られるから
・勉強するということは，規則のようなものだから
・みんながあたりまえのように勉強しているから

引用文献

新井邦ニ郎（1995）.「やる気」はどこから生まれるのか－学習意欲の心理　児童心理，**49**(3)，3-11.

Denis，M.（1989）. Images et cognition; Paris: PUF.

ドゥニ，M. 大久保政憲・兵藤宗吉・寺内　礼・富田正二・三上典生（訳）(1989）イメージの心理学－心像論のすべて 勁草書房

Gysbers, N. C., Heppner，M.J., & Johnston, J. A.（2003）. *Career counseling: process, issues, and techniques.* Boston, MA: Allyn & Bacon.

家島明彦（2011）．キャリア教育へのナラティブ・アプローチ－自己物語と人生双六によるキャリアデザイン支援の試み－日本キャリア教育学会第33回研究大会発表論文集，78-79.

国立教育政策研究所（2013）．生きるための知識と技能５-OECD生徒の学習到達度調査（PISA）2012年調査国際結果報告書 明石書店

松本浩司（2012）．高等学校におけるキャリア教育のさらなる展開に向けて－教授・学習開発論の視点から教科教育での取り組みを中心に－　名古屋学院大学論集社会科学編，**49**(1)，125-143.

三川俊樹（1990）．ライフ・キャリアの視点からみた役割受容，進路指導研究，**11**，10-17.

文部科学省（2004）．キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書「児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるために」

文部科学省（2011）．中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

長崎榮三（2005）．国際比較からみたわが国の算数・数学教育の課題　学力の総合的研究　高浦勝義研究部長還暦記念論文集，179-191　黎明書房

西村多久磨・河村茂雄・櫻井茂男（2011）．自律的な学習動機づけとメタ認知的方略が学業成績を予測するプロセス－内発的な学習動機づけは学業成績を予測することができるのか？，教育心理学研究，**59**，77-87.

西村多久磨・櫻井茂男（2013）．中学生における自律的学習動機づけと学業適応との関連，心理学研究　**84**，365-375.

Ryan, R.M., & Deci, E.L.（2000）. Self-determination theory and facilitation of intrinsic motivation, social development, and well-being. *American Personality*, **55**，68-78.

坂柳恒夫・清水和秋（1990）．中学生の進路課題自信度と性役割自己概念との関連 進路指導研究，**11**，18-27.

Shepard, R.N.（1978）. Externalization of mental images and the act of creation. In B.S. Randhawa & W.E. Coffman（Eds.）, *Visual learning, thinking and communication.* New York: Academic Press.

Super, D. E.（1980）. A life-span, life space approach to career development. *Journal of Vocational Behavior*, **16**，282-298.

鈴川由美・豊田秀樹・川端一光（2008）．我が国の数学教育は数学を日常生活の中で活用する能力を重視しているか　教育心理学研究，**56**，206-217.

田澤　実（2005）．ライフ・キャリア・パースペクティブと将来イメージの関連：女子大学生が展望する仕事・家族・余暇の重みづけ，進路指導研究，**23**，19-25.

豊田秀樹（2011）．質的研究の理論的サンプリングにおける理論的飽和度，日本教育心理学会第53回総会発表論文集，624-625.

Relationship between "life career image" and "autonomous motivation for learning" in third-year junior high school students

Tomoyuki YAMADA*

ABSTRACT

We examined relationship between life career image and autonomous motivation for learning in third-year junior high school students. Life career image was measured using JINSEI SUGOROKU. Text data that appeared in JINSEI SUGOROKU (Ieshima, 2011) was classified based on life roles suggested by Super (1980). Multiple regression analysis was conducted, classifying a life role as an independent variable and autonomous motivation for learning as a dependent variable. The results indicated "words related to students" affected the factor of identified regulation of autonomous motivation for learning in the past. In the future, words related to students also affected the factor of identified regulation. Furthermore, "words related to workers" and "words related to Homemaker or Parent" affected the factor of integrated regulation. The above results suggest that it is important to provide career education that develop career image focusing on life career image, such as occupation or family role among others, in order to increase autonomous motivation for learning.

* School Education